

令和3年度 第2回伊勢崎市多文化共生キーパーソン会議

会議録概要

開催日時 令和3年10月1日(金) 午後6時30分～午後7時30分

開催場所 伊勢崎市役所東館5階第1会議室

参加者

- ・キーパーソン 【4名】:相沢 正雄さん(ペルー)、朝倉 平さん(ベトナム)、
本堂 晴生さん(日本)、若林ヤスイスエリさん(ブラジル)
- ・事務局(国際課)【4名】:国際課長、国際化係長、事務局職員2名

1 開会・あいさつ

2 意見交換

【多文化共生キーパーソンが考える「多文化共生」とは】

【多文化共生キーパーソンとしてこれから活躍していきたいこと】

- ・今後も色々な情報を集めて発信していきたいと思っている。
- ・多文化共生キーパーソンに認定されてから多くの人からの反響と応援をいただいております、より気を引き締めていこうと思った。
- ・もともと違う文化で生まれている以上、日本人と外国人が歩み寄って、お互いを知るきっかけを作り、理解し合うことが多文化共生である。
- ・伊勢崎市は、外国人住民と一緒に街づくりをしていこうとしているのが分かる。この多文化共生キーパーソン事業を通じて、外国人住民の方々の意見を行政に届けられる機会を設けてもらい感謝しております。
- ・外国人住民が地域と関わるのが重要になってきている。
- ・県内の各自治体では、外国人住民のために専用の窓口が設置され、多言語の案内表示もあり、外国人が住みやすい環境整備が整ってきている。これからも住みやすい環境づくりの手助けをしていきたいと思っている。
- ・お互いのバックグラウンドを理解し合うことが多文化共生の実現に繋がると思うし、SDGsの取組みにあるように人種や国籍の不平等を無くし、共に社会問題に取り組んでいく意識を一人一人が持っていけたら良いと思う。

- ・どのようにしたらベトナム人が住みやすくなるのかをいつも考えている。また、外国人による犯罪を無くしていくにはどうしたらよいのかも考えている。

・市が外国人に対して情報を発信していることは本当に助かっているし、素晴らしいと思っている。しかし、様々な状況に置かれている人がいるため、情報を共有する時に共有先が偏らないように注意することも必要だと感じる。

・市内にいくつか技能実習生のための管理組合があるため、市が連携を取ってはどうか。

・他市で開催されたベトナム人交流会に参加したことがあり、そこでは意見交換などを通してお互いが交流できる場があった。伊勢崎市でも、交流会などで生活ルールを教えたり、警察からのお話を聞けるような機会があれば良いと思う。

・国籍が理由で就職ができない事例があるなど厳しい状況に身を置いている人もいるため、市と企業が連携をすれば状況は少しでも良くなると思う。

・仮放免者の新型コロナウイルスワクチンの受け方など、真に必要とされるような情報を職員も含めて共有しておいてほしい。

・「多文化共生」と聞いた時に思い浮かぶのは、近所でのトラブルである。近年、外国人住民が一戸建て住宅を購入するが増えてきた。

・近所の外国人住民が夜遅くまで騒いでいたことがあり、注意をしたときに相手方は不思議そうな様子であった。それは、相手方の母国では夜に友人を集めてパーティーをすることはごく当たり前のことであるからであり、そこで日本人と外国人とでは生活習慣の「当たり前」が違うことを実感した。

・相手方の言語で住人だけでなく来客にも分かるように、「夜は住宅街では静かにするようお願いします。お互い理解して、気持ちよく暮らしましょう。」と紙に書いたことがあった。

・多文化共生の実現には、生活レベルでのトラブルをできるだけ起きないようにしていくことが重要であると思う。トラブルが起きたり言葉が通じなかつたりすると、交流する機会がなくなり、日本人住民と外国人住民が互いに嫌な感情を持ってしまうため、「多文化共生」とはならない。

・生活習慣の「当たり前」をお互い理解することが大切であるため、各国籍の「当たり前」が比較できるリーフレットを作り、ホームページ等に載せると良いと思う。また、アパート等に住み始めるときには不動産会社を通しているため、不動産会社にもリーフレットの配布について協力をしてもらうのも良いと思う。

・区費とは何か、払う理由は何かを説明したものも用意して、不動産会社や人材派遣会社から渡してもらってはどうか。

・お互いの文化を理解して気持ちよく暮らしていけるように、最低限の生活ルールを学んでほしい。

・最近、日本に働きに来ている外国人の皆が日本語を学びたいわけではないことを知った。日本語を学ばなくても今の環境に満足しており、会社から言われた通りの仕事をしていれば給料をもらえているからだ。企業側も日本語を学ばせることは大変であり、外国人

側も日本語を学んでも給料が上がるわけではないと思っている。それが良い悪いではなく、学んだ日本語を活用して会社で活躍することで給料が上がるような環境があれば、日本語を学ぶことにやりがいを見いだせると思う。

・また、商工会議所の方と外国人従業員について話す機会があり、昔は言われた仕事をしていればよい単純労働であったが、今はよりレベルの高い仕事が求められるようになっていたとのことだった。これからの企業は、外国人従業員を雇うことも増え、海外企業との競争が激しくなり、デジタル化も進み、高い能力が必要とされる仕事が増えるため、日本語をしっかり学んだ外国人従業員は貴重な存在になると思う。

・「多文化共生」は、言葉にもあるとおり色々な文化を持った人たちが共に生きていくことであり、共に生きていくことに必要なことは、お互いの文化を理解することだと思う。
・私は長い間、日本で生活していて、外国人住民がなかなか日本の生活ルールを理解してくれないことに悩んできた。日本に出稼ぎに来た外国人は、言葉がわからないことでたくさん問題が出てくる。日本に来る前のある程度の日本語や日本の生活文化を知っていれば、実際に来た時の問題が少なくなると思う。

・近年、外国人が住宅を購入することが増えてきたと実感する。住宅を購入するということはその地域にずっと住むということであり、地域との関りがとても大事だと思う。

・最初は地域の生活ルールを全く知らないため、ごみの出し方など細かく教える必要がある。

・私の住む地区に区費を払わない外国人住民がいるが、前もって区費というものがあり、区費を払わなければならない理由を知ることができれば、トラブルは少なくなると思う。

・地区では休日に当番で清掃活動することがあるが、外国人住民にとってはせっかくの休日なのになぜ清掃活動をしなくてはならないのかと思っている人がいて、そういった人に対して、私はキーパーソンとして、地区をきれいに保つために必要な活動で、皆が順番に担っていること、共に生活していくうえで大切なことだと説明をしている。

・区費、ごみの出し方などの生活ルールの話聞いて共感することあった。技能実習生は管理組合で約1か月間、ごみの出し方など生活ルールを勉強した後、配属される。しかし、配属後に学んだ生活ルールを守る実習生もいれば、守らない実習生もいる。その違いは、配属した先の企業の指導や教えによるところも大きいと思う。実習生の生活問題を管理組合だけの責任にせず、企業もしっかり実習生を見守る体制が必要であり、逆に管理組合は企業に丸投げするのではなく、企業をサポートできるような体制が重要だと思う。

・また、生活ルールのパンフレットを作るのも大事であるが、なかなか読まないこともあるため、しっかり言葉にして伝えてあげることの方が大事だと思う。

・外国人住民が全員生活ルールを守っていないわけではなく、ちゃんとルールを守っている方達もいるため、見極めもとても大事だと思う。

・私も住宅を買う外国人住民に生活マナーを教えることや地域とのつながりがとても大事だと思った。

・外国人住民にごみの分け方・出し方のマナーを教えるチャリティーイベントを考えている。外国人に積極的に地域のごみ拾いをしてもらうことで、外国人と地域との距離を縮めてもらおう。楽しめる要素も取り入れて外国人にごみ出しルールを覚えてもらう。町中をみんなで歩くことによって、外国人に交通ルールも体感してもらおう。こうした取り組みによってお互いの文化を知ることができたら良いと考えている。

・多文化共生キーパーソンとして、情報発信以外にも住みやすい環境づくりへの取組みが他にないかを常に考えている。

・一人一人が自分たちにもできることを考えていくことが必要だと思う。外国人住民も含めて、みんながより良い生活環境にしていくために自分にできることは何かを考えることが重要である。

・今後、外国人のための日本語無料教室を開こうと考えている。具体的なことはまだ決めていないが、子どもが放課後の塾として活用したり、親子で利用してもらおうことも考えている。イベントや教室を通じて学んだことを一人一人が実行してもらい、自立することが大事である。

・また、これから交通事故多発マップを多言語で作成し、少しでも交通事故を減らし、通学路の情報として役に立ててもらいたいと考えている。

・さらに、これから外国人住民の老後やお墓のあり方についても考えていきたい。

・行政からキーパーソンにしてもらいたいことも言っていただければ、キーパーソンとしても行動がしやすい。

3. 事務連絡

4. 閉 会